

第18回(平成24年度)
「水にかかわる生活意識調査」結果レポート
=水道水への評価下がるも、不満なし=

ミツカン水の文化センター(事務局:東京都中央区新川1-22-15茅場町中埜ビル9F 株式会社ミツカングループ本社内)では、本年6月中旬に、東京圏、大阪圏、中京圏の在住者1,500名を対象に、平成24年度「水にかかわる生活意識調査」を実施し、このほど集計結果がまとまりました。

東日本大震災から1年余りが経過し、インフラとしての水道のありがたさを改めて認識している方も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、「水道水」や「水に関する災害」などに対する回答に注目しました。加えて、東京・大阪・中京圏との対比を目的に、昨冬に記録的大雪に見舞われた日本海側の代表的な雪国である新潟市を対象に、同様の設問にて特別調査を実施しました。

「水にかかわる生活意識調査」は、センター設立に先立ち、1995年に第1回目を実施して以来、ほぼ同じ内容で毎年6月に行っており、今回が18回目になります。日常生活と水とのかかわりや意識、水と日本文化などについてアンケート形式で調べることにより、生活者の実感としての水の諸相を明らかにしようというものです。

《調査結果トピックス》

■東京・大阪・中京圏

- ◇水道水の評価…10点満点で7.02点、昨年比マイナス0.43ポイント 2ページ
- ◇水道水への不満…「なし」が1位、37.6%、不満トップは「料金高い」 2ページ
- ◇水に関して誇れること…約6割が「川」に誇り／地域差あり 3ページ
- ◇水のありがたさ…「のどの渇きをいやすとき」が過半数 3ページ
- ◇水に関する認知・経験…4割超が「水源地を知っている」 4ページ
- ◇不安を感じる水の災害…トップ3は「台風」「水不足」「断水」 4ページ
- ◇災害時の水の備え…半数以上が「ミネラルウォーター買い置き」／東高西低！？ 5ページ
- ◇水の使い方…節水意識は低下傾向／特に若年層 5ページ

■新潟市

- ◇水に関して誇れること…新潟市民の約7割が「ある」、うち8割超が「川」 6ページ
- ◇不安を感じる水の災害…新潟市民の約4割が「河川の氾濫」 6ページ
- ◇水の都…新潟市民の2人に1人が「新潟」と答えるも、東京・大阪・中京圏では0.5% 7ページ
- ◇印象深いふるさとの風景…新潟市民が選んだトップ3は「水田」「海の砂浜」「雪景色」 7ページ
- ◇思い出す雪国…新潟市民の約8割、東京・大阪・中京圏の約4割が「新潟」 8ページ
- ◇行ってみたい雪国…新潟市、東京・大阪・中京圏の半数以上が「北海道」 8ページ
- ◇雪のプラスイメージ…1位「美しい景色」以下、5位まで新潟市と東京・大阪・中京圏で同じ順位 9ページ
- ◇雪のマイナスイメージ…新潟市の1位は「除雪」、東京・大阪・中京圏の1位は「道路が滑る」 9ページ

◆調査概要

10ページ

〔この件に関するお問い合わせ先〕

ミツカン水の文化センター 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15茅場町中埜ビル9F

株式会社ミツカングループ本社内

TEL.03-3555-2607 FAX.03-3297-8578 <http://www.mizu.gr.jp>

* 第1回(1995年)～第18回(2012年)「水にかかわる生活意識調査」の集計概要は、上記HPで紹介しています。

水道水に関する意識／東京・大阪・中京圏

Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

◇全体の平均は7.02点

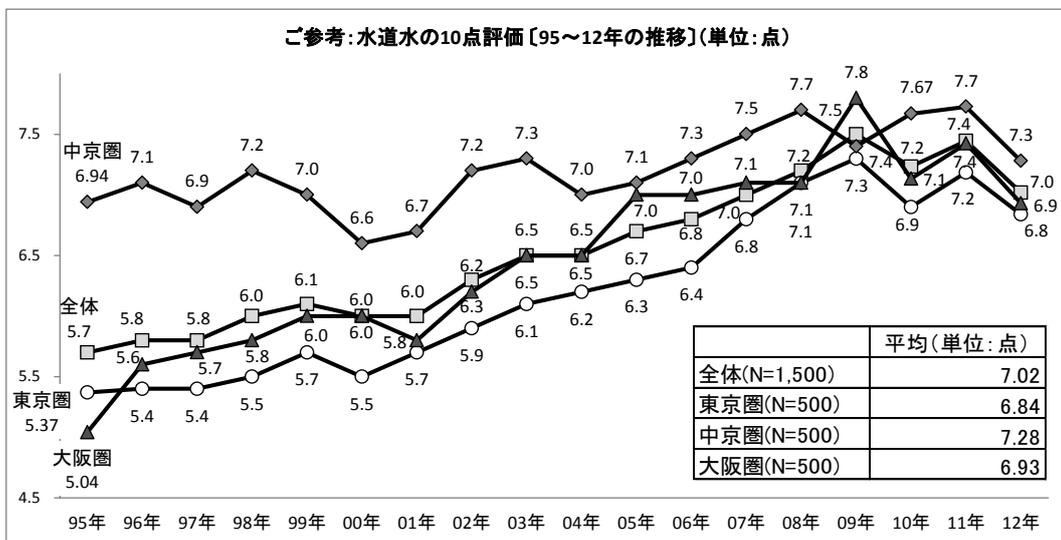
◇東京圏、大阪圏はともに7点台割れ

普及率は100%に近く、どこでも安全な水が飲める世界に誇るべき日本の水道。その水道水はどう評価されているのでしょうか？

10点満点で聞いたところ、全体の平均は7.02点で、昨年(7.45点)を下回る結果となりました。

居住地別に見ると、中京圏がトップで7.28点。10点満点をつけた人も12.6%で、3エリア中で最多でしたが、いずれも昨年(7.73点/10点満点17.0%)を下回っています。また、東京圏と大阪圏は、ともに7点台を割り、それぞれ6.84点、6.93点でした。

東京圏では東日本大震災以降、金町浄水場(東京都葛飾区)で放射性物質が検出された話題や、今年に関東の一部で水道水からホルムアルデヒドが検出された問題などが影響したとも考えられ、大阪圏、中京圏においてもこれらの報道による影響が要因になっているのかもしれませんが。



*ご参考までに2011年までのデータを入れ込み、推移グラフとしました。

対象エリア：1995年…東京都、大阪府、愛知県、1996～2012年…東京圏(1都3県)、大阪圏(2府1県)、中京圏(3県)

有効回答数：1995～2009年…467～554、2010～2012年…1,500

Q.水道水について不満を感じていることは？（8択＋その他＋特に不満はない）

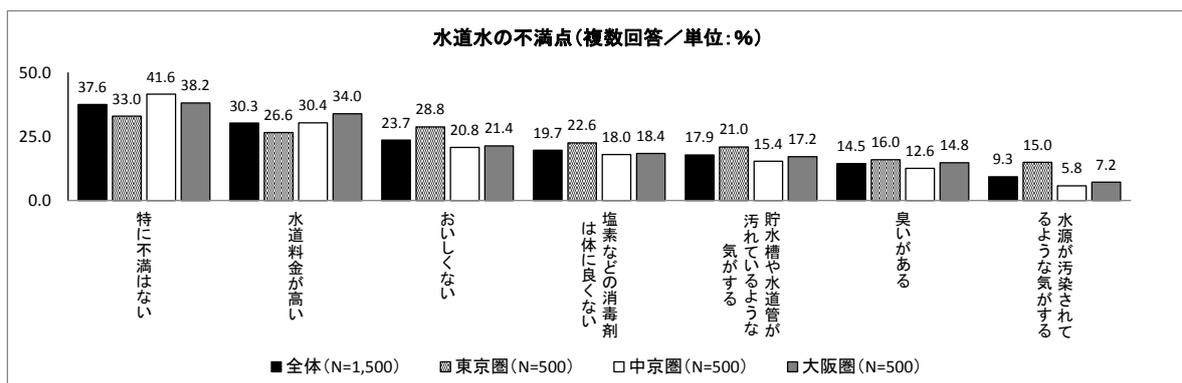
◇1位は「特に不満はない」

◇不満のトップは「料金が高い」

「水道水に対する不満」を聞いたところ、37.6%が「特に不満はない」で、昨年(36.9%)に続き1位でした。

一方、「不満」の1位は「水道料金が高い」(30.3%)で、「おいしくない」(23.7%)が2位でした。

居住地別に見ても「特に不満はない」は各エリアでトップ(東京圏：33.0%、中京圏：41.6%、大阪圏：38.2%)で、中京圏、大阪圏は「水道料金が高い」「おいしくない」と続き、東京圏のみ「おいしくない」が2位でした。水道水の評価は下がっているものの、使用する上での不満は感じていないようです。



Q.あなたの居住地域に、水に関して誇れることはありますか？

Q.水に関して誇れることは何ですか？

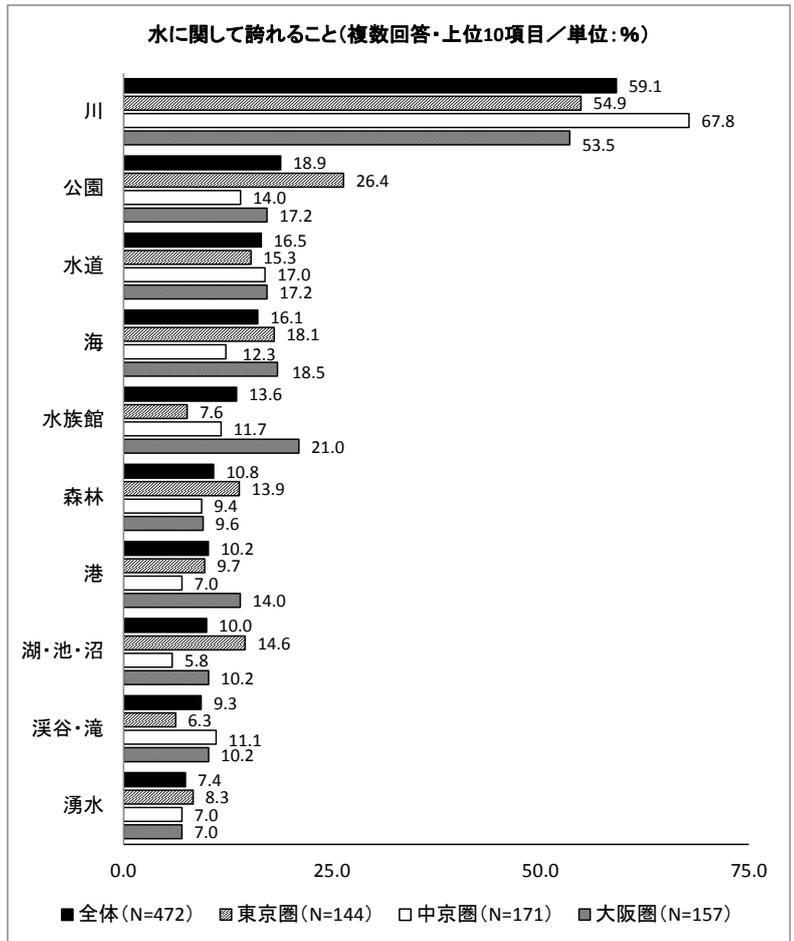
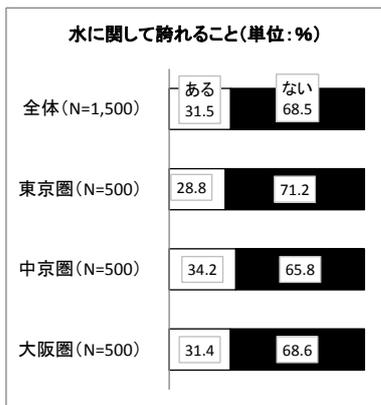
(15択＋その他／前問で「誇れることがある」人のみ回答)

◇「誇れることがある」が約3割

◇水に関して誇れることの中で「水道」は3位

居住地域で「水に関して誇れること」を聞いたところ、「居住地域に水に関して誇れることがある」は全体の約3割(31.5%)で、昨年(29.0%)より微増。居住地別に見ると、東京圏が28.8%で最も少ないものの昨年(20.8%)より8.0ポイント上昇し、全体を押し上げました。

次に、「誇れることがある」人を対象に、具体的に「何か？」を聞いたところ、59.1%が「川」で1位、次いで「公園」が18.9%で2位でした。昨年2位(17.9%)の「水道」は3位(16.5%)に下がりましたが、東京圏では15.3%(4位)と、数値・順位ともに昨年(9.6%・7位)より上昇しました。



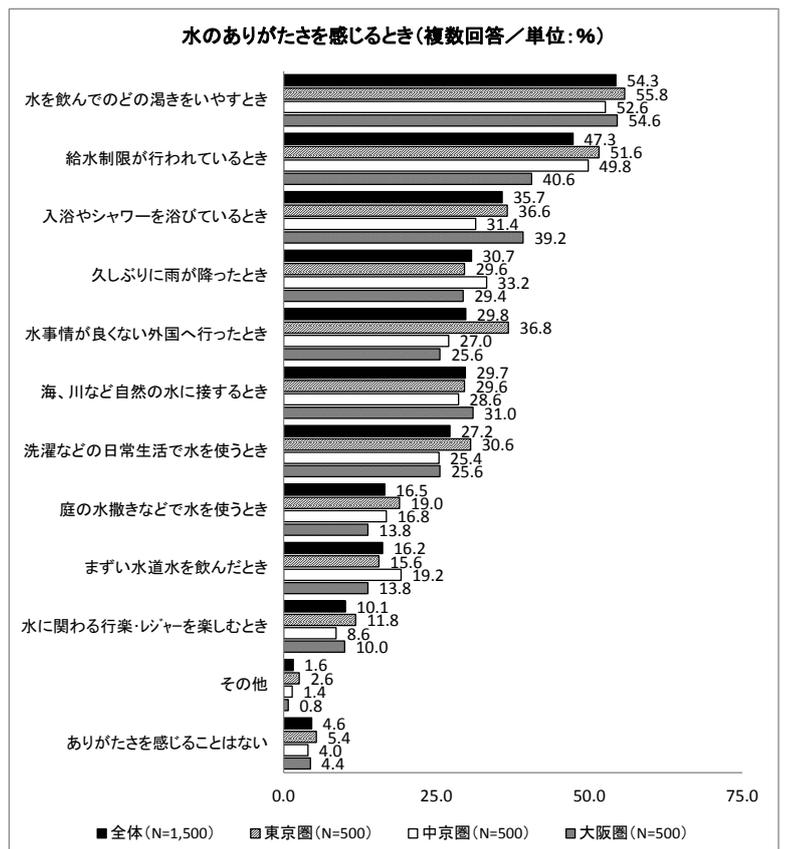
Q.水のありがたさを感じるときは？

(10択＋その他＋感じることはない)

◇1位は「のどの渇きをいやすとき」

水のありがたさをどんなときに感じるかを聞いたところ、「のどの渇きをいやすとき」(54.3%)に半数を超える回答があり1位、以下、「給水制限のとき」(47.3%)、「入浴やシャワーを浴びているとき」(35.7%)と続き、トップ3は昨年と同様でした。

居住地別に見ても、数値に大きな差はありませんでした。

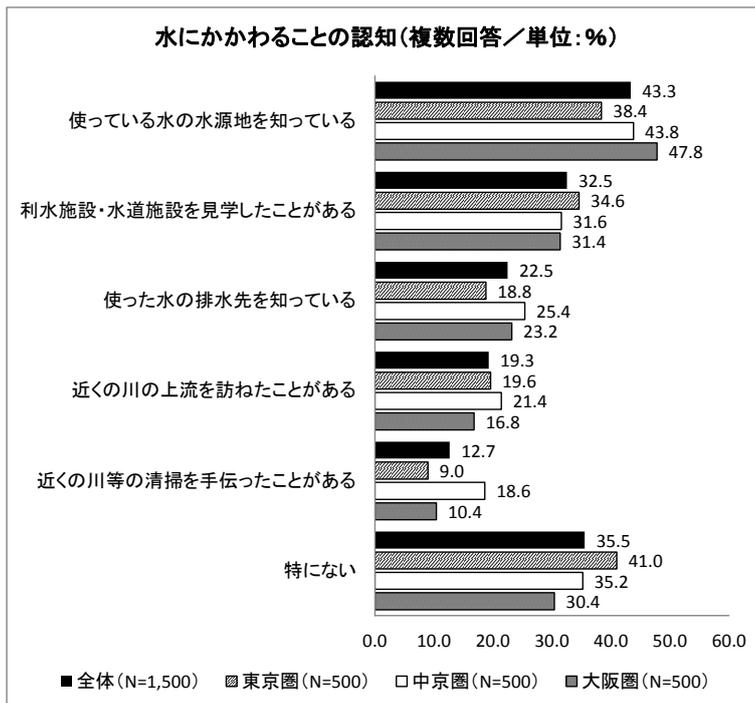


Q.水にかかわることで知っていること、経験のあることは？（5択+特にない）

◇4割超が「水源地を知っている」

水にかかわる事例を5つあげて認知・経験を聞いたところ、全体の4割超（43.3%）が「使っている水の水源地を知っている」と回答。次いで多かったのが「特にない」（35.5%）でした。

年代別にみると、「水源地を知っている」は20代（23.0%）、30代（35.3%）、40代（45.3%）、50代（53.0%）、60代（60.0%）と、年代が上がるほど水源地の認知が高く、「特にない」は60代（22.3%）、50代（26.3%）、40代（35.3%）、30代（45.0%）、20代（48.7%）と、年代が低いほど水に対して無関心な傾向がうかがえました。



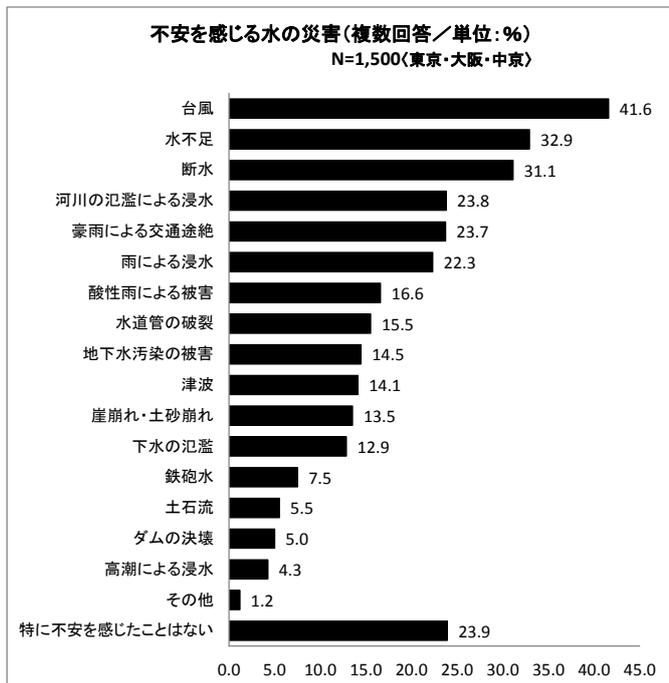
水と災害／東京・大阪・中京圏

Q.不安を感じる水の災害は？（16択+その他+特に不安を感じたことはない）

◇不安を感じる水の災害トップ3は「台風」「水不足」「断水」

◇東京圏の5人に1人は「断水」が最も不安

「不安を感じる水の災害」について聞いたところ、トップ3は「台風」（41.6%）、「水不足」（32.9%）、「断水」（31.1%）で、「水不足」「断水」が上位に挙げられ、“水道水がなくなる”ことへの不安が高いことを感じさせた一方で、4人に1人が「特に不安を感じたことはない」とし、日頃の危機意識に不安の残る結果となりました。次に、「特に不安を感じたことはない」の回答者を除いて「最も不安を感じる水の災害」を聞いたところ、東京圏のトップは「断水」（19.0%）、中京圏では「河川の氾濫による浸水」「雨による浸水」がそれぞれ2位、3位と上位でした。東京圏は昨年の東日本大震災の影響による「断水」の被害を受け、中京圏は2000年に東海豪雨で被害を受けており、これらの経験がそれぞれの結果に表れたといえそうです。



不安を感じる水の災害トップ5（複数回答／単位：％）

	東京圏 (N=500)	中京圏 (N=500)	大阪圏 (N=500)
1位	台風	台風	台風
	39.4	46.8	38.6
2位	水不足	水不足	水不足
	35.4	33.6	29.8
3位	断水	断水	特に不安を感じたことはない
	35.4	31.0	28.0
4位	豪雨による交通途絶	河川の氾濫による浸水	断水
	26.0	30.6	27.0
5位	特に不安を感じたことはない	雨による浸水	河川の氾濫による浸水
	22.2	29.0	22.8

※東京圏のみ「水不足」「断水」が同率2位

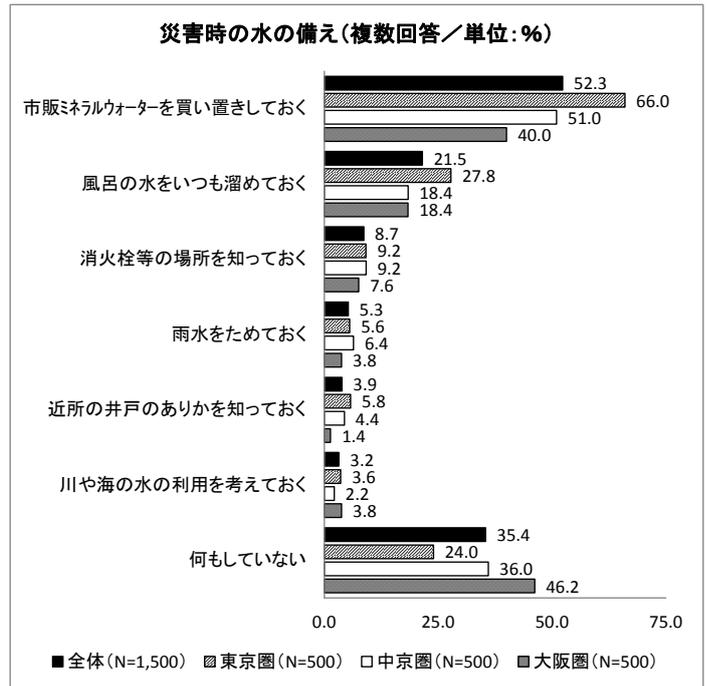
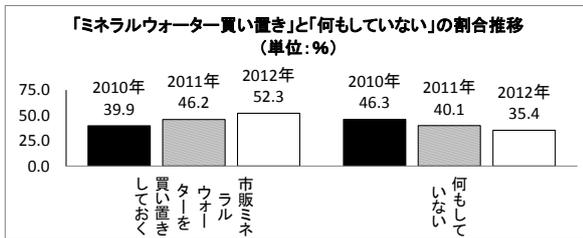
Q.災害時の水の備えは？（6択＋何もしていない）

◇ミネラルウォーターの買い置きは東高西低！？東京圏では3人に2人

◇“備えなし”は減少傾向

「地震などの災害時に対する普段の水の備え」を聞いたところ、全体の半数以上（52.3%）が「ミネラルウォーターを買い置きしておく」と回答しました。特に東京圏では3人に2人（66.0%）と高く、中京圏51.0%、大阪圏40.0%と、西側に行くほど「買い置き」率は低くなるという東高西低の傾向が見られました。

一方、「何もしていない」は35.4%で、一昨年（46.3%）、昨年（40.1%）から減少傾向にあります。また、居住地別では、東京圏24.0%、中京圏36.0%、大阪圏46.2%と、こちらは西高東低でした。



日常の水意識／東京・大阪・中京圏

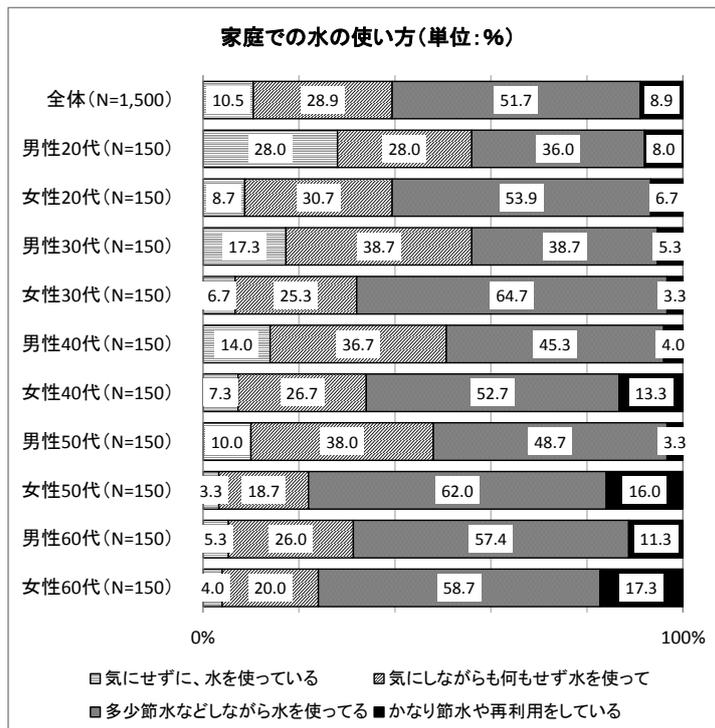
Q.水の使い方は？（4択）

◇約6割は節水を意識も、若干低下の傾向

◇20代男性の約3割は「気にせずに使っている」

「家庭での水の使い方」について聞いたところ、「節水している（「多少節水」＋「かなり節水」）」は60.6%で昨年（62.4%）から微減、「気にせず使っている」と「気にしながらも何もせず」の合計が39.4%で昨年（37.6%）より微増と、大きな変化ではないものの、節水意識に若干低下の傾向が見られました。このところの関心事は、節水より節電なのかもしれません。

性別・年代別で見ると、「気にせず使っている」＋「気にしながらも何もせず」で男性48.4%、女性は30.3%と、18.1ポイントの差があったほか、20代男性は「気にせず使っている」が28.0%で断然のトップでした。



特別調査：水と雪に関するイメージ／新潟市

ミツカン水の文化センターでは、雪の多い地域での水に関する意識を明らかにするため、昨冬に記録的大雪に見舞われた日本海側の代表的な雪国である新潟市において、同市在住の20～60代の男女479名を対象に特別調査を実施しました。ここでは、東京・大阪・中京圏との比較において、特筆すべき差異がみられた項目を中心に紹介します。

Q.あなたの居住地域に、水に関して誇れることはありますか？

Q.水に関して誇れることは何ですか？

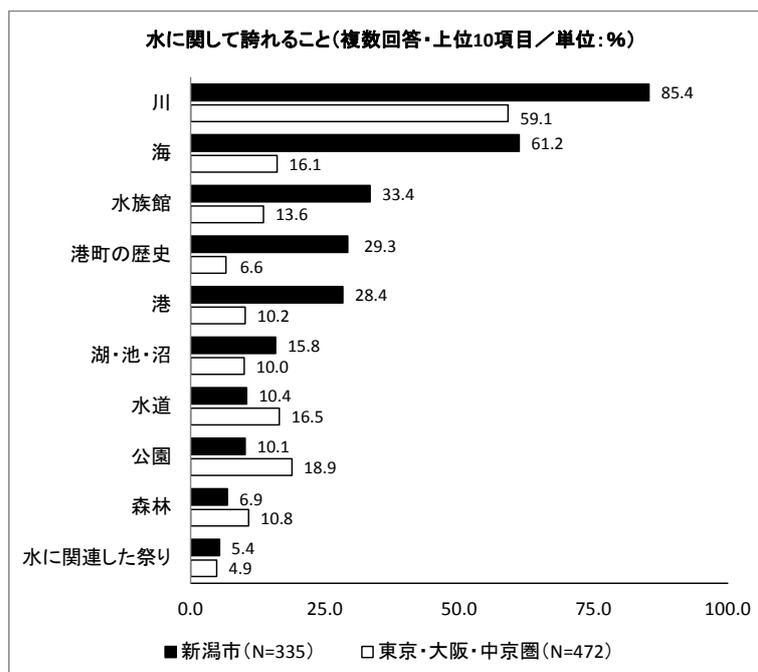
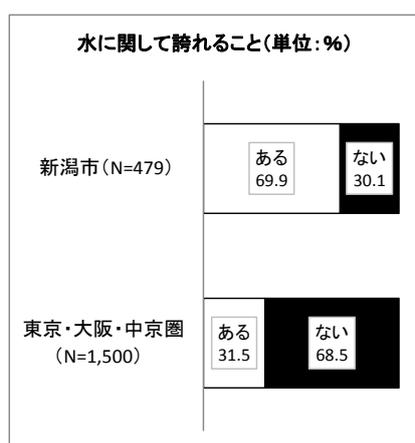
(15択＋その他／前問で「誇れることがある」人のみ回答)

◇新潟市民の約7割が「水に関して誇れることがある」

◇誇れることの1位は「川」、2位が「海」

新潟市民の約7割(69.9%)が「水に関して誇れることがある」としました。これは東京・大阪・中京圏の2倍を超える数値です。

そして「水に関して誇れること」として、新潟市民の「誇れることがある」人のうち85.4%が「川」、61.2%が「海」を挙げました。「川」は、東京・大阪・中京圏でも1位(59.1%)ですが、数値に26.3ポイントもの開きがありました。また、3位以降に目を向けると、3位「水族館」(33.4%)、4位「港町の歴史」(29.3%)、5位「港」(28.4%)で、東京・大阪・中京圏と大きな違いが出ました(東京・大阪・中京圏ではそれぞれ5位:13.6%、11位:6.6%、7位:10.2%)。これらは、日本一長い信濃川や、国際拠点港湾である新潟港、新潟市水族館(マリニピア日本海)などを有する新潟市ならではの結果といえます。

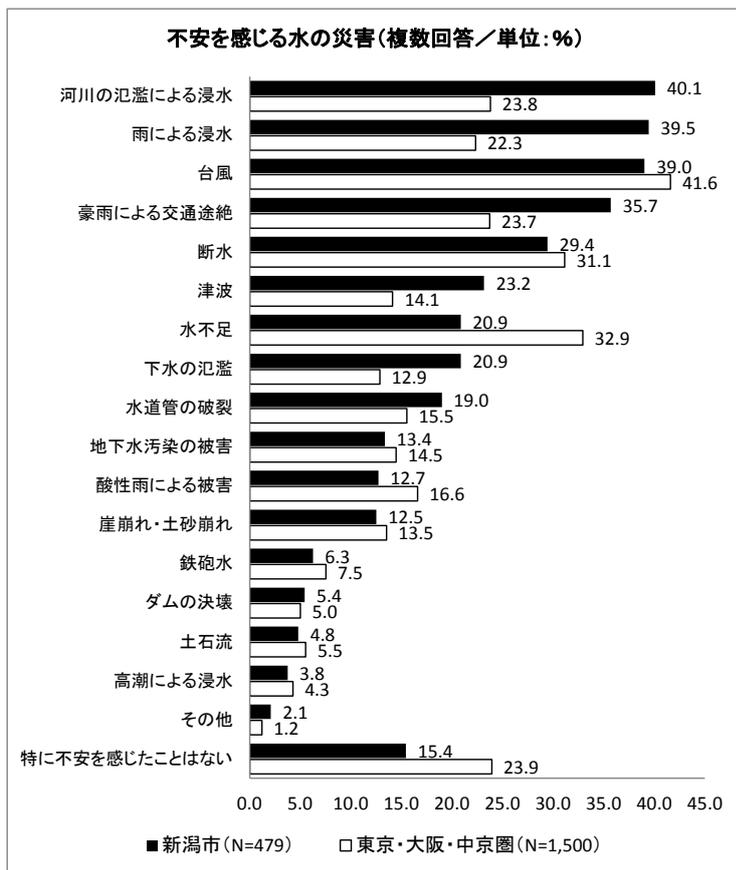


Q.不安を感じる水の災害は？ (16択＋その他＋特に不安を感じたことはない)

◇新潟市民が不安を感じる水の災害は、1位「河川の氾濫」、2位「雨による浸水」

新潟市民の「不安を感じる水の災害」でトップに挙げたのは「河川の氾濫による浸水」(40.1%)で、5人に1人(20.2%)が「最も不安を感じる水の災害」としても回答しました。次いで「雨による浸水」(39.5%)が僅差の2位で、新潟市民は浸水による被害を恐れていることが分かりました。新潟県は2004年、2011年と記録的豪雨(平成16年7月新潟・福島豪雨および、平成23年7月新潟・福島豪雨)に見舞われており、これが結果に影響していると考えられます。

東京・大阪・中京圏と比較すると、東京・大阪・中京圏では「水不足」(2位:32.9%)、「断水」(3位:31.1%)が上位だったのに対し、新潟ではそれぞれ7位(20.9%)、5位(29.4%)と、順位・数値ともに下回る結果となりました。



Q.「水の都」のイメージにもっとも近い都市は？ (自由回答)

◇新潟市民の水の都は「新潟」も、全国区の認知は低い！？
東京・大阪・中京圏で「新潟」を挙げたのは0.5%

新潟市民がイメージする「水の都」は、「新潟」。新潟市民の2人に1人(52.8%)が「水の都は新潟」としました。これは、大阪圏の「大阪」(48.4%)、中京圏の「大垣」(22.0%)と比べても、かなり高い得票率といえます。新潟市は、かつて市の中心部に堀が巡り、それに沿って柳が植えられていたことから、「柳都」とも呼ばれており、「水の都＝新潟」が、新潟市民としては当然の認識なのでしょう。

一方、東京・大阪・中京圏全体のトップは「大阪」(21.1%)、次いで「思い浮かばない」(17.3%)、「大垣」(7.7%)で、「新潟」と回答したのは、わずか0.5%でした。地元が誇る“柳都新潟”も、全国区での認知は低いようです。

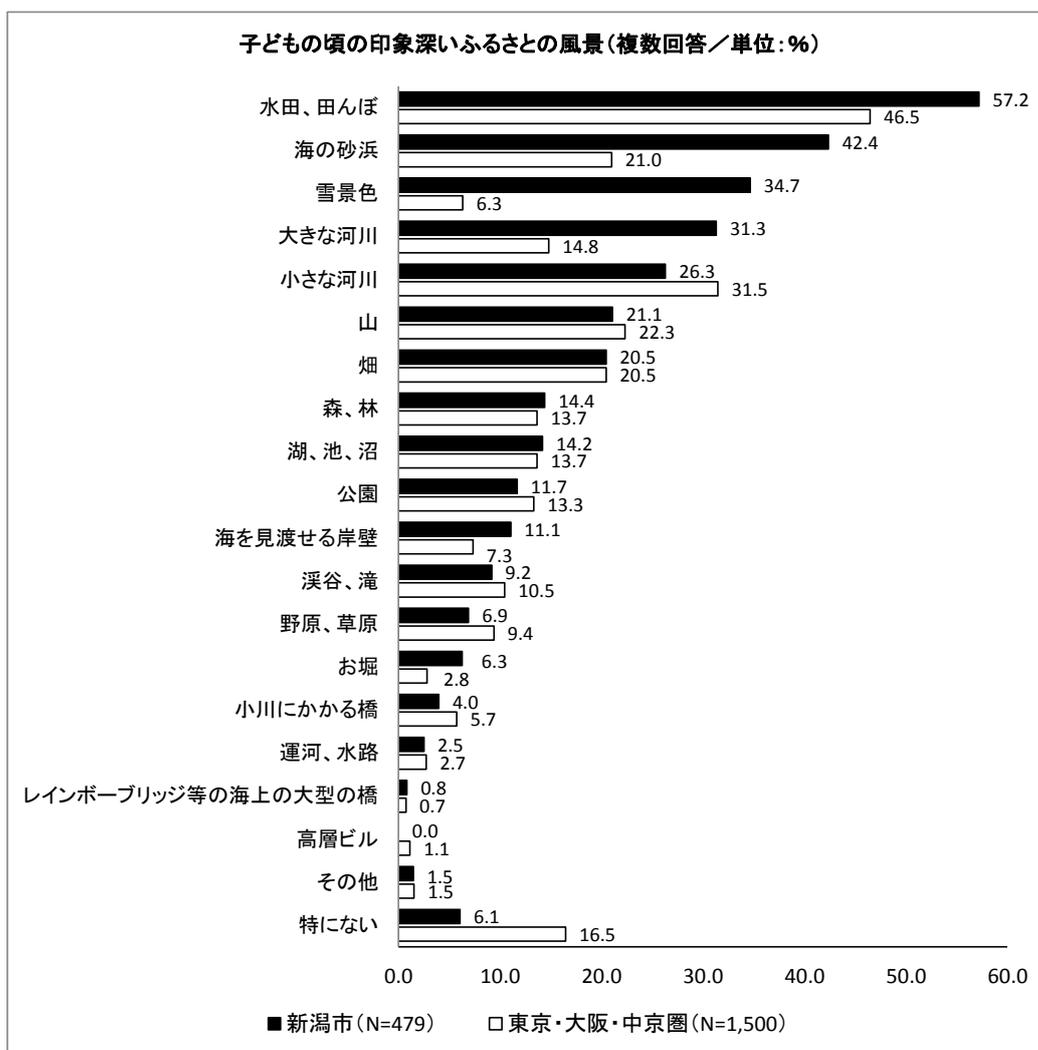
水の都のイメージ都市トップ5(自由回答/単位: %)

	1位	2位	3位	4位	5位
新潟市 (N=479)	新潟	思い浮かばない	柳川	大阪	仙台
	52.8	12.9	5.6	4.0	2.7
東京・大阪・中京圏 (N=1,500)	大阪	思い浮かばない	大垣	滋賀	郡上八幡
	21.1	17.3	7.7	5.3	2.9

Q.印象深いふるさとの風景は？ (18択+その他+特にない)

◇新潟市民が選んだトップ3は「水田」「海の砂浜」「雪景色」

「子供の頃の印象深いふるさとの風景」を聞いたところ、新潟市民が選んだトップ3は1位「水田・田んぼ」(57.2%)、2位「海の砂浜」(42.4%)、3位「雪景色」(34.7%)でした。“米どころ”“新潟海岸”“雪国”といった新潟のイメージからも納得の結果といえます。ちなみに東京・大阪・中京圏は、1位「水田・田んぼ」(46.5%)、2位「小さな河川」(31.5%)、3位「山」(22.3%)で、「雪景色」は6.3%(13位)と、さすがに大きな差が表れました。



Q. 「雪国」と聞いて思い出す都道府県は？ (自由回答)

Q. 最も行ってみたい国内の「雪国」は？ (自由回答)

◇思い出す雪国は「新潟」

◇行きたい雪国は「北海道」

「雪国」と聞いて思い出す都道府県を聞いたところ、新潟市民の約8割(80.4%)が地元「新潟」を挙げ、東京・大阪・中京圏でも40.6%でトップでした。次いで「北海道」(新潟10.0%、東京・大阪・中京圏24.5%)、「青森」(新潟6.5%、東京・大阪・中京圏17.0%)と、数値に違いはあるものの、新潟市と東京・大阪・中京圏のトップ3は同じでした。ただし、東京・大阪・中京圏で年代別にみると、20代と30代の1位は「北海道」(20代:43.0%、30代:31.7%)、「新潟」は2位(20代:27.3%、30代:29.7%)と、順位が逆転しました。新潟(湯沢町)は、川端康成の代表作「雪国」の舞台でもあり、「雪国=新潟」のイメージに大きな影響を与えているものと思われませんが、その影響力は世代が若くなるにつれて低くなっているのかもしれませんが。

また、最も行ってみたい国内の「雪国」については、新潟市、東京・大阪・中京圏ともに、半数以上が「北海道」を挙げ(新潟市55.2%、東京・大阪・中京圏50.9%)、「新潟」を挙げたのは、東京・大阪・中京圏で7.7%(5位)という結果でした(新潟市では3位8.6%)。

雪国として真っ先に思い浮かぶのは「新潟」でも、それが必ずしも行きたい雪国とならないのは、“雪まつりの北海道”と“豪雪の新潟”といった、両者のイメージの差が原因なのかもしれません。

「雪国」と聞いて思い出す都道府県トップ5(自由回答/単位:%)

	1位	2位	3位	4位	5位
新潟市(N=479)	新潟	北海道	青森	秋田	山形
	80.4	10.0	6.5	2.9	1.7
東京・大阪・中京圏(N=1,500)	新潟	北海道	青森	秋田	富山
	40.6	24.5	17.0	9.6	2.4

最も行ってみたい国内の雪国トップ5(自由回答/単位:%)

	1位	2位	3位	4位	5位
新潟市(N=479)	北海道	雪国は苦手・雪国在住	新潟	秋田	青森
	55.2	11.1	8.6	7.9	6.3
東京・大阪・中京圏(N=1,500)	北海道	青森	秋田	雪国は苦手・雪国在住	新潟
	50.9	9.5	8.4	7.9	7.7

Q.雪に対するプラスイメージは？(7択+その他+特にない)

Q.雪に対するマイナスイメージは？(10択+その他+特にない)

◇プラスイメージに乖離はないが、マイナスはイメージと現実にギャップ！？

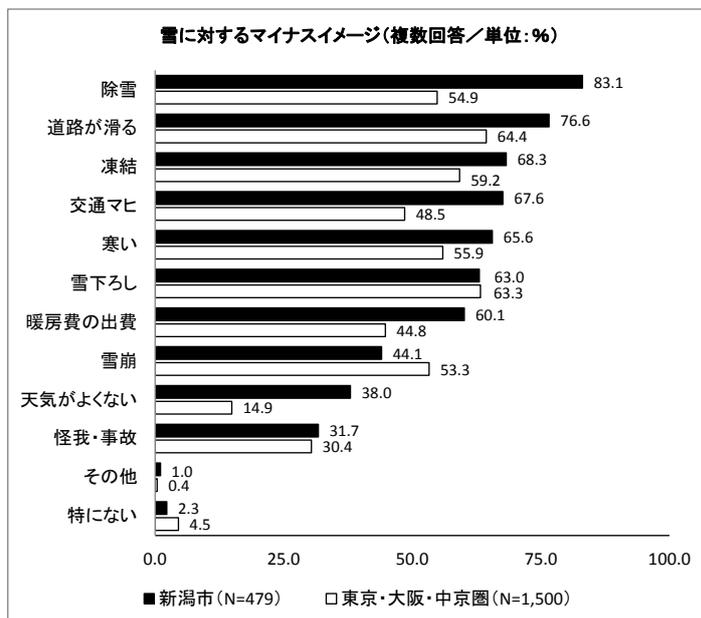
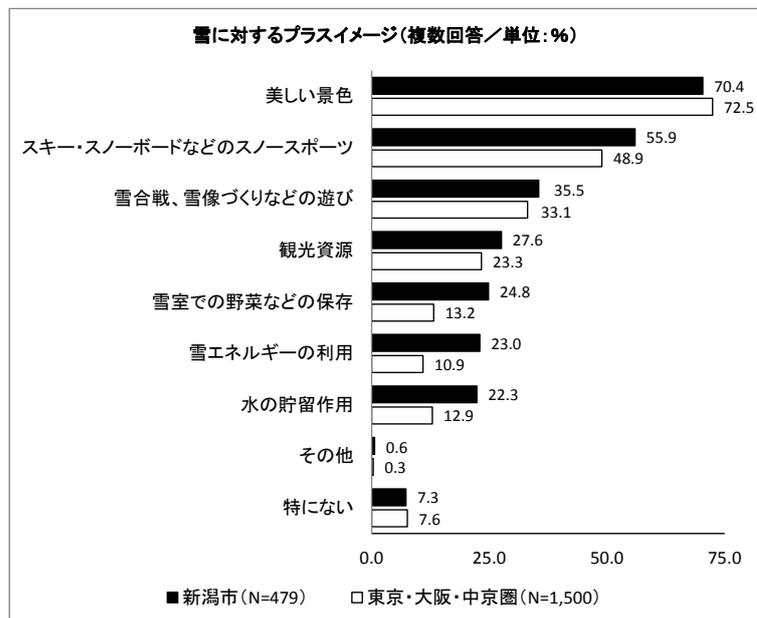
マイナスイメージの新潟市1位は「除雪」、東京・大阪・中京圏の1位は「道路が滑る」

雪に対して感じるプラスイメージとマイナスイメージを聞いたところ、プラスイメージは、新潟市も東京・大阪・中京圏も、1位「美しい景色」(新潟市70.4%、東京・大阪・中京圏72.5%)、2位「スキー・スノーボードなどのスポーツ」(新潟市55.9%、東京・大阪・中京圏48.9%)、3位「雪合戦、雪像づくりなどの遊び」(新潟市35.5%、東京・大阪・中京圏33.1%)、4位「観光資源」(新潟市27.6%、東京・大阪・中京圏23.3%)、5位「雪室での野菜などの保存」(新潟市24.8%、東京・大阪・中京圏13.2%)と、トップ5はすべて同じ順位でした。

一方、マイナスイメージは、新潟市では1位「除雪」(83.1%)、2位「道路が滑る」(76.6%)、3位「凍結」(68.3%)で、東京・大阪・中京圏のトップ3は、1位「道路が滑る」(64.4%)、2位「雪下ろし」(63.3%)、3位「凍結」(59.2%)でした。

両者を比較すると、順位もさることながら、それぞれの数値に大きな差がみられました。例えば、「除雪」は新潟市でトップ(83.1%)だったのに対し、東京・大阪・中京圏では5位(54.9%)と、28.2ポイントの開きがあり、新潟市4位(67.6%)の「交通マヒ」は、東京・大阪・中京圏では48.5%の7位でした。

外から見た雪国に対するイメージと、実際に雪国で暮らす人のリアルな現実とのギャップによる差が表れた結果といえそうです。



【調査概要】

第18回(平成24年度)「水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 1,500票
- ◆調査対象者 : 東京圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成24年6月7日(木)～6月14日(木)
- ◆回収数(人) :

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	小計
20代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
30代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
40代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
50代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
60代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
合計	250	250	250	250	250	250	750	750	1,500
	500		500		500				

特別調査「新潟市民の水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 479票
- ◆調査対象者 : 新潟市に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成24年6月7日(木)～6月14日(木)
- ◆回収数(人) :

	男性	女性
20代	50	50
30代	50	50
40代	50	50
50代	50	50
60代	50	29
合計	250	229
	479	

参考 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、食酢の醸造を社業の中心としてきました。食酢の醸造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものでありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターを活動拠点に研究活動、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、「使いながら守る水循環」を学ぶ市民参加型ワークショップ「里川文化塾」の実施など、様々な活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業の、そして一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用していきます。